

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	マーブルスポット			
○保護者評価実施期間	令和7年 10月 1日		～	令和7年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数)	34
○従業者評価実施期間	令和7年 10月 1日		～	令和7年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 12月 3日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・事業所内全体がバリアフリーのワンフロアである。	・車椅子対応の福祉車両があり、玄関・フロア・トイレと全室がバリアフリーでつながっていて安全に移動や活動ができる。 ・玄関の入口ところにミラー、玄関には開閉時にチャイムが鳴るようにして不審者の侵入防止等の安全対策を行っている。 ・見通しがきき、開かれた空間で虐待予防ができる。 ・個別に学習をする時はパーテーションで仕切り、運動等の時には仕切りを外し、広く使うなど活動に応じ臨機応変に対応している。	・今年度はより快適に過ごせるように外壁や室内工事を実施した。今後も子どもたちが安全・快適に過ごせるように環境を整えていきたい。
2	・市内各地の小学校や支援学校から来所していて、学校や地域とは異なるコミュニティで活動できる。 ・夏休みには県内の様々な場所に出かけている。	・年齢の近い横のつながりだけでなく、縦のつながりを持てるように小集団でドッジボール等の運動やカードゲームなどを行っている。	・季節のイベント等では、さらに異年齢で関わる活動を取り入れ、年上の子どもには役を担ってもらうことで高学年としての意識を高めてもらう。
3	・支援員が多種多様である。	・年齢や経験の異なる職員が揃っている（保育士、教員経験者、教員免許を取っている人、心理学を学んだ人）。 ・大学生のアルバイトや夏休みには介護等体験の大学生も来て、いろいろな人が子供たちと関わるができる。さらに今年度は地域の高校生にも体験で来てもらい、子ども達はより年の近い学生との関わりを楽しんでいた。	・宿題+αで個に合わせたプリントや指先を使う作業訓練などを取り入れている。学習内容や気付きについてはその都度連絡帳で伝え、年度末には学習の記録をまとめて保護者にお渡ししている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・父母会の活動やペアレントトレーニングができていない。	・以前は父母の会を開催していたが、参加者が少なく、固定されていたので現在活動はできていない。 ・職員にペアレントトレーニングの専門性の不足。	・保護者向けの研修資料は玄関に掲示し周知していたが、今後はLINE等も活用し、全保護者に周知していきたい。 ・外部講師を招いて職員も含めて研修会を開く等検討したい。
2	・地域との交流・児童クラブ等との交流がない。	・平日はなかなか時間が取れない。	・時間的に難しいが、イベント等、時間が取れる時には地域のデイサービスや高校等との交流の機会を設けていきたい。
3	・運動などの活動スペースが十分とれなかったり、活動がやや固定化されがちである。	・広いワンフロアではあるが、思い切り運動するには不十分な広さである。 ・平日は時間的にできる活動が多くない。	・スポット室内でできる身体を動かす活動には限界がある。安全面に留意しながら可能な時は散歩や園芸等の戸外活動を取り入れたい。 ・活動が固定化しないように短時間でも取り組める遊びや活動を考えていく。